

「安全で住みよい地域社会の実現」を目指して

一般社団法人 山口県防犯設備士協会 副会長
防犯設備士 第03-8401号

西丸 隆



近年、商店街、通学路、店舗、個人宅等に設置された防犯カメラの映像が犯人割り出しの重要な手がかりとなり、犯罪抑止のための有効な手段として、防犯カメラへの関心が高まる中、地元、山口県宇部市の商店街、自治会に設置した事例を紹介したいと思います。

2015年、自治会連合会長から、通学路に防犯カメラを設置したいとお話がありました。過去に女児が切り付けられる事件が発生しており、子どもを取り巻く安全の確保から防犯カメラの設置を考えられました。自治会役員の方に防犯カメラのプレゼンを行いました。記録される映像を見ていただき、ご質問等をお受けして、カメラの選定、設置場所の確認をいたしました。設置まで順調に進んでほしいと思いましたが、自治会連合会から各自治会、そして、住民の方へのご説明、ご理解をいただくまで大変にご苦労されたようです。また、助成金等も行政への申請が大変だったように聞いています。同年、11月に宇部市内の通学路では初となる設置工事が完了いたしました。

2018年、商店街の設置事例です。これも、宇部市の商店街では初の設置となりました。商店街の会長から、商店街所有の街灯に防犯カメラを設置したいと言われました。犯罪の抑止、また映像という確かな証拠を残したい等を考えられていきました。

商店街役員の方にプレゼン等を行い、順調に進むように思われましたが、電力会社から商店街の街灯のカメラの設置、電源の供給は出来ないとNGになりました。電力会社から別に鋼管ポールを立て設置した場合は、電源の供給は出来ると言われて、設置工事は大幅に変わりました。電力会社の担当者から何度も説明を受け、電源供給の難しさがわかりました。

市道でしたから、市の道路課に鋼管ポールの設置申請となり、何度も足を運びました。そして、市の担当者から防犯カメラの設置事例は今まで無いと言われて、全く前に話が進まず、設置工事までかなりの日数を要しました。2019年3月末に、宇部市の商店街では、初となる防犯カメラの設置が完了いたしました。



商店街に設置した防犯カメラの経験を踏まえ、本年4月27日に、山口県防犯設備士協会で防犯カメラの技術研修会を開催いたしました。防犯カメラメーカーの担当者から設置設定に至る技術説明を受け、電力会社の担当者から防犯カメラに設置に関わる注意点等の説明を受けました。とても有意義な技術研修会となりました。これからも、防犯カメラメーカー、電力会社との情報収集と県警との連携は必要と思いました。

2018年9月25日、一般社団法人山口県防犯設備士協会設立20周年記念事業として、宇部市小羽山校区に防犯カメラ1台を寄贈しました。贈呈式は同校区ふれあいセンターで開催され、協会会員、校区の各種団体などから20人の出席で開催されました。三吉会長から「安全で安心な、まちづくりのお役に立てれば」とあいさつされました。ご来賓に県警本部生活安全企画課から「県内の犯罪は減少傾向にあるが、全国的に見れば子どもを狙う犯罪は後を絶たない。防犯カメラの設置は犯罪の未然防止になる」と祝辞をいただきました。そして、同校区の連合会長から「登下校の見守りや、事故発生時の速やかな対応、校区民の安心のために活用させていただきたい」と謝辞をいただきました。

協会として初の記念事業となりました。次の30周年は更に素晴らしい記念事業が開催出来ればと思いました。その為にも協会としての今後の課題は、会員の増強です。正会員、賛助会員を増やして、組織を安定させること、技術研修会等の開催により会員のスキルアップが必要と思います。県警、防犯の関連団体との情報の共有、会員同士の交流による情報の共有、そして、協会から情報発信が最も大切に思います。

これからも防犯カメラの設置設定の技術を学び、防犯カメラを地域の方に理解をしていただき、安全で住みよい地域社会の実現を目指したいと思います。

